『語学教育研究論叢』第 36 号

上方芸能における都都逸

福盛　貴弘

Dodoitsu in Kamigata entertainment

FUKUMORI Takahiro

要旨

本稿の目的は、上方芸能における都都逸を紹介することである。都都逸は、七・七・七・五調の音数律となる定型詩である。基本的には、都都逸は三味線伴奏による俗曲であるが、上方芸能では現在ほぼ演じられることがない。しかし、音曲漫才のテーマソング、歌謡曲、CM ソング、ドラマのナレーションなどで援用されている。その用例を列記することで、日常的に気づかないが、身近に都都逸が息づいていることを確認した。

Abstract

The purpose of this paper is to introduce Dodoitsu in Kamigata entertainment. The Dodoitsu is a fixed form poetry with 26 mora in the pattern of 7-7-7-5. Basically, it is a folk song to be accompanied with a Shamisen. Currently, it is not sung in Kamigata entertainment. However, there are Dodoitsu in comic backchat with songs, popular songs, commercial songs and narration of dramas. From these examples, it is comfirmed that Dodoitsu is close to many Japanese.

1. 序

上方落語『刻うどん』において、清八と喜六が廓のひやかしの後、うどん屋に着くまで暇つぶしに都都逸を歌いながら歩いていくというくだりがある。このくだりは、福盛貴弘（2016）で示したように『時そば』にはないくだりである。『刻うどん』での都都逸については、福盛貴弘（2017）で紹介し、語りとしての都都逸の音声学的特徴について論じているので、本稿では割愛する。

本稿の目的は、上述のような落語以外の上方芸能に出てくる都都逸を紹介することである。普段から上方芸能に接している者なら耳にしているのだが、それが都都逸だとは気づいていないことが多い。そこで、筆者が劇場やテレビやラジオなどで視聴、聴取した記憶がある範囲での都都逸をここに記していく。

都都逸とは、江戸時代後期に生まれた七・七・七・五の音数律に従った口承による定型詩である。定着させたのは、初代都々逸坊扇歌（どどいつぼうせんか）と言われている。

都々逸坊 扇歌（初代）
没年：嘉永 5.10.29（1852.12.10）
生年：文化 1（1804）
江戸末期の音曲師。医師岡本玄作の次男。名は子之松、のち福次郎。常陸国佐竹村（茨城県常陸太田市）の生まれ。江戸へ出て船遊亭扇橋に入門。美音で当意即妙、謎とき唄や俗曲「とっちりとん」をよくし、音曲界のスターとなった。天保 2～4（1831～33）年には名古屋で話題になったが、活躍の場は主として江戸であり、天保改革（1842）で寄席の音曲が禁じられたのちも三味線で謎ときを続けた。弘化 3（1846）年には専用の駕籠で 3 軒の寄席を掛け持ちし、日収 7,8 両を得ている。禁令を犯してのことで絶頂期は短く、放浪の末に没した。
〈参考文献〉石川淳『諸国畸人伝』　（倉田喜弘）
『朝日日本歴史人物事典』より引用

上方「よしこ節」から生まれた「名古屋節」のあいのて「ドドイツドイドイ」が都都逸の起源という見解があるが、これについての詳細は定かではない。また、上方「よしこ節」が発端とされるが、現在の上方芸能では三味線伴奏による俗曲としての都都逸は寄席ではほとんど演じられることはない。都都逸は江戸から東京にわたって流行した歌曲芸能であるが、その形式は上方芸能で援用されることがある。

都都逸の基本的な音数律は七七七五であるが、この七七七五の前に五があっても構わない。五七七七五であるため、短歌や狂歌の音数律とは異なって、差別化は図られている。また、七七七五に後続する時には、必ずしも七七七五でなくても構わない。（五）七七七五のあとに七七七五を繰り返さず、七五七五となる例もあるということである。

2. 音曲漫才での都都逸

2.1. 女性音曲漫才師

上方芸能の音曲漫才では、冒頭に自己紹介の歌を歌うことが多い。その中にいくつか都都逸の音数律をなしているものがある。都都逸の音数律は（五）七七七五……である。枕としての（五）はあってもなくてもよく、はじめに七七七五があれば、その後は七五が繰り返されてもよい。

まずは、かしまし娘から。かしまし娘は、正司歌江・照江・花江による三姉妹[1)]で構成され、1956 年から 1981 年にかけて活動した浪曲系音曲漫才師として、松竹の大看板であった。テーマソングは以下のとおりである[2)]。

---

1) 正司歌江（うたえ）（1929 生、長女、リーダー、三味線）。正司照江（てるえ）（1933 生、次女、ギター）。正司花江（はなえ）（1936 生、三女、ギター）。漫才師としては、1981 年以降は事実上活動休止状態だが、3 人揃っての出演は、21 年ぶりに 2002 年、「新春大演芸大会」（https://www.youtube.com/watch?v=b66exM2wDMA）で漫才を披露した。以降はトークのみだが、2017 年 2 月 3 日に結成 60 年を越えて久しぶりに 3 人で「徹子の部屋」（テレビ朝日系）に出演し、2018 年 1 月 20 日には道頓堀角座の舞台に立ち、5 月 17 日には「お笑い演芸館」（BS-朝日）に出演している。また、2018 年 3 月 20 日には上方芸能の殿堂入りを果たした。

〽ウチら陽気な　かしまし娘　誰が言ったか　知らないが
　女３人　寄ったら　かしましいとは　愉快だね
　ベリーグッド　ベリーグッド　お笑いお喋り　ミュージック
　明るく歌って　ナイトアンドデイ　ピーチクパーチク　かしましい

ウチラヨーキナ(7) / カシマシムスメ(7) / ダレガイッタカ(7) / シラナイガ(5) というように、都都逸の音数律になっている。その後は、オンナサンニン(7) / ヨーッタラ(5) / カシマシイトワ(7) / ユカイダネ(5) であるが、先述したようにはじめが七七七五といった音数律であれば、都都逸といえるのである。

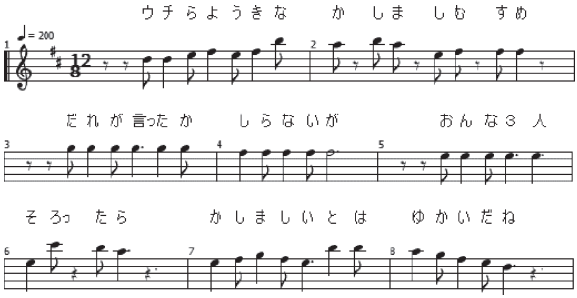

図１　かしまし娘 OP 冒頭部：七や五の音数律が１小節に収まっている[3)]

ついで、フラワーショウ。フラワーショウは、1961 年から 2009 年にかけて活動しているが、メンバー変更を行なっている。筆者になじみがある構成は、華ぼたん・ばら・ゆり[4)]である。女性 3 人組の浪曲系音曲漫才師で、松

[2)] 作詞：大村淳一、作曲：都上英二。映像は、『伝説の昭和上方漫才 松竹名人会』（2007、Sony Music Direct）で確認できる。
[3)] 本稿の全ての採譜は、柳澤葵子氏の協力を得た。この場を借りてお礼申し上げる。
[4)] 華ぼたん（1927-1989、リーダー、三味線）。華ばら（1936-2006、ギター）。華ゆり（1947 生、ギター）。ばらはぼたんの養女、ゆりはぼたん門下。仕事が減ったことを苦にしたぼたんの入水自殺によっていったん活動停止したが、フラワーショウ ゆり・ばらとして再始動。2006 年に肝不全によるばらの逝去によって、トリオは消滅した。

竹の大看板であった。テーマソングは以下のとおりである[5]。

〽ようこそー　みなさまー　ご機嫌よろしゅう
　歌って笑って　フラワーショウ
　どうぞー　よーろしく　願いまーす

ヨーコソミナサマ(8) / ゴキゲンヨロシュー(8) / ウタッテワラッテ(8) / フラワーショウ(6) というように基本的に字余りの音数律であるが、これは都都逸の範疇に属する。かしまし娘は七・七・七・五という音数律の句切れに対して忠実に歌っていたが、フラワーショウはそうではなく、「ようこそー / みなさまー / ご機嫌よろしゅう / 歌って / 笑って / フラワーショウ」といった句切れがある。これは例外というわけではなく、語る都都逸ではなく歌う都都逸については、節回しや小節の区切りは当人が決めるものであって、音数律の句切れで必ずしもポーズを挟まないのである[6]。

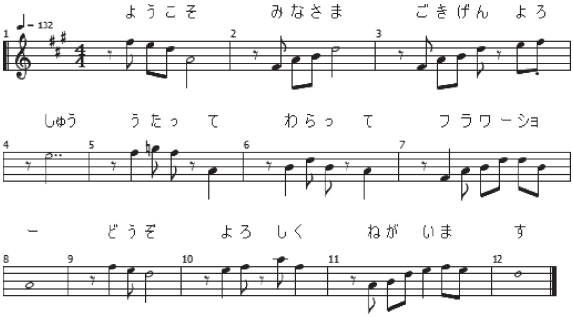

図 2　フラワーショウ OP：句切れと小節が対応している

[5] 音声は、『澤田隆治が選んだ 爆笑！漫才傑作集 (2)』(2004、日本コロンビア）で確認できる。

[6] 例えば、柳家三亀松の都都逸「この袖で ぶってやりたい もしとどくなら 今宵の二人にゃ 邪魔な月」では、それぞれの句末は節を伸ばしており、「今宵の / 二人にゃ」で句切れがある。『三亀松都々逸集』(2004、日本コロンビア）参照。この点については、講演「上方落語と都都逸と音声学」(2016/9/2、日本実験言語学会、室蘭工業大学）で話した。

つづいて、ジョウサンズ。1962 年から 1975 年にかけて活動していた女 3 人組の浪曲系漫才師であるが、メンバー変更を行なっている。筆者になじみがある構成は、日吉川秋水嬢・喜久子・スミ子[7]である。テーマソングは以下のとおりである[8]。

〽さぁさぁ　出ました　わたしらトリオ
　歌って　笑って　朗らかに
　トーリオー　トーリオー　ジョウサーンーズ

サーサーデマシタ(8) / ワタシラトリオ(7) / ウタッテワラッテ(8) / ホガラカニ(5) という音数律である。こちらは「さぁさぁ / 出ました / わたしら /

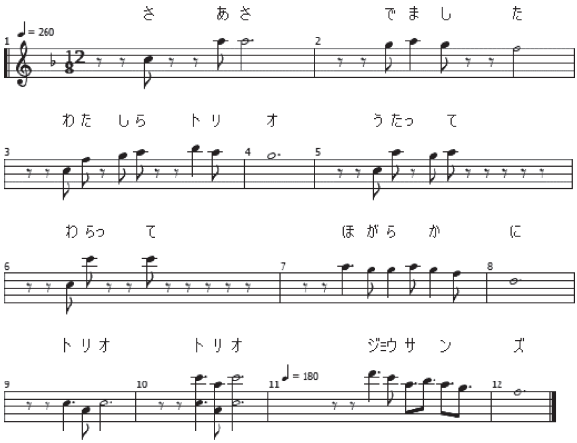

図 3　ジョウサンズ OP：細切れにしていることが確認できる

7) 日吉川秋水嬢（しゅうすいじょう）（1932 生、リーダー、ギター）。日吉川喜久子（きくこ）（1930-1996、三味線）。日吉川スミ子（1949 生、ギター）。解散が 70 年代後半に秋水嬢（妹）とキク子（姉）の姉妹のみで第 2 期ジョウサンズを結成し、1995 年に解散した。3 人のお嬢さんで、「嬢＋三＋ズ」。

8) https://www.youtube.com/watch?v=gENfhYEkJ-E　音声は筆者の知る限り販売されておらず、今のところでこの音源でしか確認できていない。

トリオ / 歌って / 笑って / 朗らかに / トリオ / トリオ / ジョウサンズ」のように細切れにして歌っていることが確認できる。

最後にこれら 3 組と同時期に活動していたちゃっきり娘。ちゃっきり娘は、松原春美、夏美、秋美[9]で構成され、1964 年から 80 年代後半まで活動していた民謡系音曲漫才師である。テーマソングは以下のとおりである[10]。

〽ハー　ちゃっきりちゃっきり　ちゃっきりな
　ちゃっきり娘が　飛びー出ーしーたー

ちゃっきり娘については、チャッキリチャッキリ(8) / チャッキリナ(5) / チャッキリムスメガ(8) / トビダシタ(5) といったように七五調ではじまり、都都逸の音数律はなしていない。これは「ちゃっきり節」を基にしているからであり、後述するが浪曲系か民謡系で分かれるというわけではない。昭和

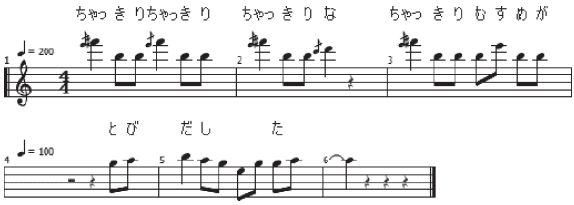

図 4　ちゃっきり娘 OP

[9] 松原春美（1946 生、リーダー、三味線）。初代松原夏美（1943 生、1967 年引退、ギター）、二代目松原夏美（1948 生、ギター）。松原秋美（1943 生、アコーディオン）。筆者になじみがある構成は、二代目夏美の頃である。1987 年に秋美がくも膜下出血で倒れた後、奇跡的に回復した（ちゃっきり娘春美 1988『神さまが命、もどしてくれた―重度記憶喪失の秋美ちゃん、奇跡の再起』主婦と生活社）が、舞台復帰の時期と活動終了時期を把握できていない。秋美ちゃんの救急車のものまね「ピーポーピーポー」がなつかしい。

[10] 音声は筆者の知る限り販売されていない。ちゃっきり娘の音声は Web 上に散見しており、例えば https://www.youtube.com/watch?v=RZ32KStUrcs で確認できる。

40 年代に活躍した代表的な 4 組であるが、うち 3 組は都都逸を基盤としたテーマソングであったことが確認できた[11]。

2.2. その他の音曲漫才師

結論を先に述べてしまうと、上方芸能界の女性音曲漫才師以外では、筆者の知る限り都都逸の音数律をなしているテーマソングはみあたらない。

まずは、暁伸・ミスハワイ。1944 年から 1989 年まで活動した、男女 2 人組[12]の浪曲系音曲漫才師である。テーマソングは以下のとおりである[13]。

〽これは素敵な　ちょいといかす　一節聞いたら　どんぴしゃり
元気百倍　力出る出る　歌も出る　何がなんでも　このコンビ
わすれず　聞きましょ　伸ハワイ
歌いましょ　踊りましょ　アアアアア　アーーーーーー　アアアアア
笑いましょ　始めましょ

コレワステキナ(7) / チョイトイカス(5)[14]/ ヒトフシキイタラ(8) / ドンピシャリ(5) といったように七五調ではじまる。

ついで、タイヘイトリオ。タイヘイトリオは、タイヘイ洋児（→原児）・夢路・糸路[15]という男 1（-児）女 2（-路）で構成された 3 人組[16]で、1951

---

[11] 1964 年から 1976 年にかけて活躍した女性コンビ、浪曲系音曲漫才師の芙蓉愛花（1938-2013）・松島洋子（1930-1976）については、筆者は劇場やテレビで見た記憶がなく、漫才の映像は今も確認できていない。テーマ曲の音声は確認できたが、都都逸ではなかった。

〽ちょいとなー　ちょいと出ました　愛花に洋子でございます
ぴーちくぱーちく囀って張り切り舞台を勤めましょう
それではよろしく願いしましょ　願いましょ

https://www.youtube.com/watch?v=RapgP6ltci0

[12] 暁伸（1915-2011、ギター）。ミスハワイ（1926-1998、歌と踊り）。

[13] 音声は、『澤田隆治が選んだ 爆笑！漫才傑作集（1)』(2004、日本コロンビア）で確認できる。

[14]「ちょい」を 1 音節で発音しているので、五と数えた。

年から 80 年代後半まで活動していた浪曲系音曲漫才師である。テーマソングは以下のとおりである[17]。

〽またも出ました　ロマンショウ　いつもニコニコ　朗らかにー
夢路さん「Oh Yeah（おーやー）」 糸路君「あいよー」洋児さん
時間来るまで　お楽しみ　タイヘイ・ト・リ・オの　お笑いー

マタモデマシタ(7) / ロマンショー(5) / イツモニコニコ(7) / ホガラカニ(5) といったように七五調ではじまる。

つづいて、宮川左近ショウ。宮川左近ショウは、宮川左近（4 代目）・暁照夫・松島一夫[18]で構成され、1958 年から 1986 年まで活動した浪曲系音曲

---

15) タイヘイ洋児（1923-？、ギター）。タイヘイ夢路（1930 生、リーダー、三味線）、タイヘイ糸路（1927 生、三味線）。タイヘイ原児（1945-2002、ギター）。1975 年に洋児が失踪、原児が加入。原児が 1985 年に脱退した後、活動終了時期を把握できていない。

16) 同様の構成となるトリオに三人奴がいた。ただ、子どもの頃に見聞きしたものではない。当時としても珍しい義太夫系音曲漫才師で、塚本やっこ（1914-1987、リーダー、三味線）、市松笑顔（1916-2004、三味線）、市松笑美子（1928-1999、三味線）で構成された。テーマソングは、市丸の『三味線ブギウギ』の編曲であるため、都都逸ではない。

〽三味線栗毛で　しゃしゃりつしゃんしゃん
さあさ歌およ　陽気にブギウギ　そろたそろたよ　しゃしゃりつしゃんしゃん
ひとりふたりに　三人そろって　浮世後生楽　三味線トリオが　三味線トリオが
さあさあ　浮かれ浮かれてブギウギ　あちょいとブギウギ

https://www.youtube.com/watch?v=HKDvQ9njMdw

17) 音声は筆者の知る限り販売されていない。タイヘイトリオの音声は Web 上に散見しており、例えば https://www.youtube.com/watch?v=TdaWxF6dPnc（洋児在籍時）、https://www.youtube.com/watch?v=G_LXj3AErnM（原児在籍時）で確認できる。なお、このテーマソングは「夢で逢えたら」（1988-1991、CX 系列）において、ダウンタウンとウッチャンナンチャンによって結成されたタキシーズのテーマソングとしてオマージュされている。

18) 宮川左近（1925-1986、リーダー、節回し）。暁照夫（1937-2015、三味線）。松島一夫（1929-2013、ギター）。暁照夫の見せ場として三味線の速弾きがあり、ソロで弾いた後に一言「なんでこんなにうまいんかしら（うまいんやろ）」とつぶやくのが好きであった。

漫才師で、松竹の大看板であった。テーマソングは以下のとおりである[19]。

〽毎度ー　皆様おなじみの　お聞き下さる一節は
流れも清き宮川の　水に漂う　左近ショー
男同士で　いたって色気はないけれど
熱と力で　今日もまた　しっかりやりましょ　時間まで
それでは陽気に　あんああんあああー　つとめましょう

マイドミナサマ(7) / オナジミノ(5) / オキキクダサル(7) / ヒトフシワ(5)といったように七五調ではじまる。以上の3組を見れば、浪曲系か民謡系かで都都逸を好むかどうかではないことが確認できる[20]。

最後に横山ホットブラザーズ。横山ホットブラザーズは、父親である横山東六によって1936年に結成され、現在は横山アキラ・マコト・セツオ[21]の3人で構成されている。現在も現役であるボーイズ[22]である。テーマソングは以下のとおりである[23]。

♪ワワ　ワワ　とかくこの世は朗らかに
笑う門には福来たる　歌う門にも又福来たる
歌って笑って　ホットブラザーズー

---

19) 音声は、『澤田隆治が選んだ 爆笑！漫才傑作集 (2)』(2004、日本コロンビア) で確認できる。

20) 上方芸能ではないが、浪曲系音曲漫才師、玉川カルテットの二葉しげるによる「金も要らなきゃ 女も要らぬ わたしゃもすこし 背が欲しい」は都都逸をなしている。音声は、『昭和のお笑い名人芸 5』(2014、キープ) で確認できる。

21) 横山東六(とうろく) (1906-1980、創始者、バイオリン)。横山アキラ (1932生、長男、ミュージックソーやギターなど)。横山マコト (1934生、次男、アコーディオン)。横山セツオ (1946生、三男、エレキギター)。

22) 楽器を使った音楽ショーを主とした笑演芸をボーイズと呼ぶ。

23) 音声は、『平成版 昭和のお笑い 名人芸 9』(2014、キープ)

トカクコノヨワ(7) / ホガラカニ(5) / ワラウカドニワ(7) / フクキタル(5)というように七五調ではじまる。

以上から確認できたのは、上方芸能の音曲漫才では女性漫才師のテーマソングで都都逸が用いられているということである。

3. 関西制作ものでの都都逸

3.1.「てなもんや三度笠」

「てなもんや三度笠」は、1962 年から 1968 年にかけて朝日放送系列で放映された喜劇番組[24]である。あんかけの時次郎[25]役の藤田まこと、珍念役の白木みのるが主演であった。脚本家の香川登志緒[26]が番組テーマソング[27]の作詞をしており、その歌詞に都都逸が確認できる。

♪雲と一緒に　あの山越えて
　行けば街道は　日本晴れ
　おいら旅人　一本刀
　「お控えなさんせ」「お控えなすって」
　腕と度胸じゃ　負けないけれど
　なぜか女にゃ　チョイと弱い

クモトイッショニ(7) / アノヤマコエテ(5) / ユケバカイドーワ(8) / ニホン

[24] 筆者はリアルタイムで見たわけではないが、後の時代の芸人が真似をして受け継ぐので、フレーズや歌は聞いたことがある。また、近年はワッハ上方のアーカイブや『てなもんや三度笠 爆笑傑作集 DVD-BOX』(2006、日本コロンビア）で視聴できる。

[25] 戯曲から映画化された『沓掛時次郎』のパロディ。時代的には、1961 年版（市川雷蔵主演）からのものだと推測できる。

[26] 香川登志緒（1924-1994、大阪府出身)。喜劇作家、漫才作家として上方芸能を支えた功労者の 1 人で、上方芸能に精通した知識を持っていることでも有名であった。また、ダウンタウンを公の場で評価し、まだ若手の彼らに握手を求めた逸話も有名である。

[27] 『てなもんや三度笠』(1962、キングレコード）作詞：香川登志緒 作曲：林伊佐緒 歌：藤田まこと

バレ（5）というように都都逸の音数律をなしている。

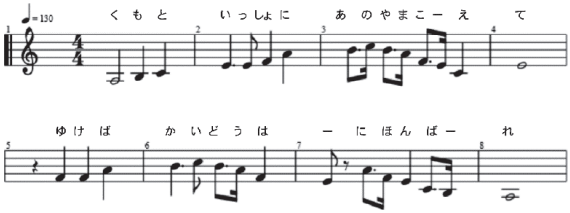

図 5　てなもんや三度笠 OP：音数律がおよそ 2 小節に収まっている

このように歌詞においては都都逸による七七七五調であったが、あんかけの時次郎の口上には反映されなかった。

ええ　あっしゃあ泉州は信太（しのだ）の生まれ　あんかけの時次郎
義理には強いが人情にゃ弱い　男の中の男一匹…

俺がこんなに強いのも　あたり前田のクラッカー

3.2.「キダ・タローのほんまにすべて」

キダ・タローは関西ローカルの CM 曲や番組テーマ曲だけでなく歌謡曲も大量に作曲した作曲家であり、浪花のモーツァルトという異名を持っている。キダ・タローは作曲家であるため必ずしも自身で作詞をしているわけではないが、楽曲の中に都都逸の音数律であるものが散見されるので、以下に列記する[28)]。

3.2.1.　CM 曲

♪ぴんとハサミを　打ちふりあげて

28)『キダ・タローのほんまにすべて』（2010、アップフロントワークス）

活きのいいのが　気にいった
獲れ獲れぴちぴち　かに料理
味で夢よぶ　味で人よぶ
かに道楽は
同じのれんの　味つづき

「かに道楽 CM」作詞：伊野上のぼる　歌：デュークエイセス

ピントハサミオ(7) / ウチフリアゲテ(7) / イキノイイノガ(7) / キニイッタ (5)

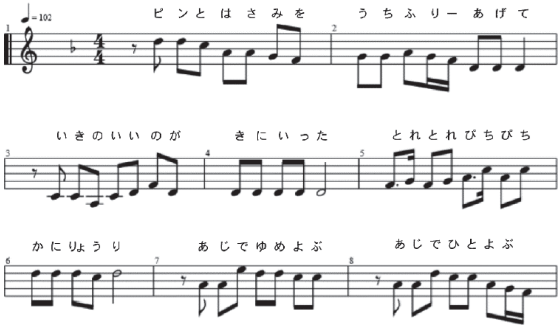

図 6　かに道楽 CM：音数律が 1 小節に収まっている

♪海の底から　おどってはねて
えび道楽にやってきた　伊勢えびよ
とれとれの　おいしさを　ありがとう
目にも舌にも
さすがさすがと　うならせる
とびっきりの　いきのよさです　味自慢

「えび道楽 CM」作詞：さつまりょう　歌：デュークエイセス

ウミノソコカラ(7) / オドッテハネテ(7) / エビドーラクニ(7) / ヤッテキタ(5)

3.2.2. 番組テーマ曲

♪星があなたに　ささやく夜も
小窓に雨が　降る夜も
お届けしましょう　若い歌
あなたのおはがき　リクエスト
聞きましょう　夢のリクエスト
あなたと 2 人の
クイズと夢のプレゼント
Oh ABC ヤングリクエスト

「ABC ヤングリクエスト」(1966-1986、ABC ラジオ）作詞：今田昭

ホシガアナタニ(7) / ササヤクヨルモ(7) / コマドニアメガ(7) / フルヨルモ(5)

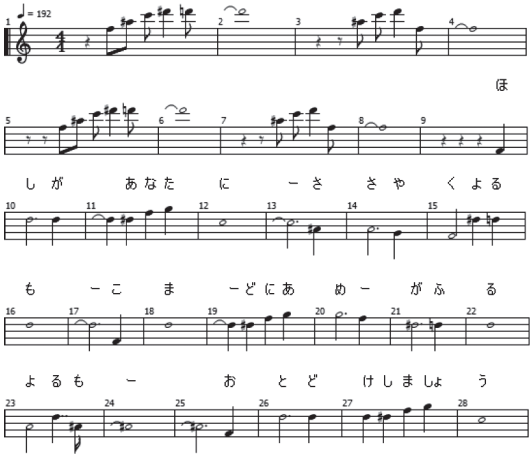

図 7　ヤングリクエスト OP：音数律がおよそ 4 小節に収まっている

♪ 2 時のワイドショー　2 時のワイドショー
2 時のやすらぎ　ワイドショー
2 時のワイドショー　2 時のワイドショー

2 時のワイドショー　2 時の夢

「2 時のワイドショー」（1979-1992、読売テレビ）作詞：キダ・タロー

ニジノワイドショー(8) / ニジノワイドショー(8) / ニジノヤスラギ(7) / ワイドショー(5)

ニジノワイドショー(8) / ニジノワイドショー(8) / ニジノワイドショー(8) / ニジノユメ(5)

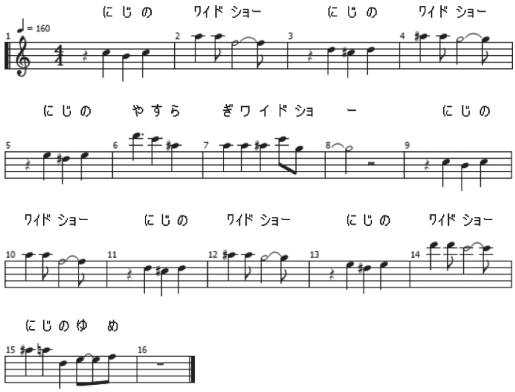

図 8　2 時のワイドショー OP：音数律がおよそ 2 小節に収まっている

3.2.3. 歌謡曲

♪夜の北浜　ほろりと酔って

柳並木を　ふたりきり

今度こそはと　待ったのに

ルー　ルル　ルルルル

好きなら（好きなら）

好きやと（好きやと）　いうてんか

いけずをせんと　いうてんか

「好きなら好きというてんか」(1991、日本コロンビア）作詞：島田陽子

歌：海原さおり・しおり

ヨルノキタハマ(7) / ホロリトヨッテ(7) / ヤナギナミキオ(7) / フタリキリ (5)

♪女手ひとつで　支えるのれん
　売りは真心　この笑顔
　さあささらりと　憂さ晴らし
　情の人肌　燗つけて
　温めてあげます　心まで
　　「人情縄のれん」(1992、東芝 EMI) 作詞：麻こよみ　歌：中村美津子

オンナデヒトツデ(8) / ササエルノレン(7) / ウリワマゴコロ(7) / コノエガオ(5)

4. 必殺シリーズ前口上での都都逸

必殺シリーズとは、1972 年「必殺仕掛人」にはじまり、中村主水役の藤田まことが主演を演じた「必殺仕事人」に代表される時代劇の総称である。朝日放送と松竹京都映画撮影所によって共同制作されており、2007 年以降は、渡辺小五郎役の東山紀之が主演を務めている。シリーズで一貫しているのは、金銭を受けとり弱きものの恨みを晴らしてくれる裏稼業による殺陣がクライマックスとなる点である。

必殺シリーズでは、オープニングで前口上がある。その前口上の中に都都逸の音数律をなすものが散見するので、以下に列記する[29]。

　金に生きるは下品に過ぎる　恋に生きるは切なすぎ
　出世に生きるはくたびれる

[29] 必殺シリーズは、テレビ埼玉と BS 朝日で連日のように再放送されている。

とかくこの世は一天地六　命ぎりぎり勝負を賭ける
仕事はよろず引き受けましょう
大小遠近男女は問わず　委細面談仕事屋稼業

「必殺必中仕事屋稼業」(1975)

カネニイキルワ(7) / ゲヒンニスギル(7) / コイニイキルワ(7) / セツナスギ(5)

二つの眼を閉じてはならぬ　この世のものとも思われぬ
この世の出来事見るがいい
神の怒りか仏の慈悲か　恨みが呼んだか摩訶不思議
泣き顔見捨てておかりょうか
一太刀浴びせて一供養　二太刀浴びせて二供養　合点承知の必殺供養

「翔べ！　必殺うらごろし」(1978-1979)

フタツノマナコオ(8) / トジテワナラヌ(7) / コノヨノモノトモ(8) / オモワレヌ(5)

昔から悪の栄えたためしはないと　世の例えには言うけれど
どうやらそうではないらしい
山のあなたの国々も　悪が栄えていると言う
わからない事ばかりだが　わかっている事ただ一つ
許せぬ悪を消す事だ
この世とあの世の境の場所に　舟を浮かべて待っている
三途の川の渡し人

「必殺渡し人」(1983)

ムカシカラ(5) / アクノサカエタ(7) / タメシワナイト(7) / ヨノタトエニワ(7) / イウケレド(5)

お医者様でも草津の湯でも　恋の病は治らねえ
恋の闇よりなお暗い　恨みの夜の稲妻に　姿が浮かぶ仕事人
顔は見ねえでおくんなせえ　心の闇を　晴らして見せやす
「必殺仕事人 V」(1985)

オイシャサマデモ(7) / クサツノユデモ(7) / コイノヤマイワ(7) / ナオラネー(5)

雪に白鷺　闇夜にカラス　紛れ隠れる悪い奴
正直者は阿呆鳥　これじゃ理屈が合いません
世の中こんなもんだよと　諦めないで来てくだせい
どこに居ようと探し出し　必ず仕留めてご覧に入れやす
「必殺仕事人 V 旋風編」(1986-1987)「必殺仕事人 V 風雲竜虎編」(1987)

ユキニシラサギ(7) / ヤミヨニカラス(7) / マギレカクレル(7) / ワルイヤツ(5)

あの世の地獄と　この世の地獄　どちらも地獄にかわりなし
おやおや　どっかで誰かが泣いてるかい
そうかいそうかい　そういうあんたにゃ他人事(ひとごと)か
いわぬが花とは申されど　ひとこと云わせていただきます
あんたが見るか　おいらが見るか
誰かが地獄を見なけりゃ終われねえ
善男善女にゃ無縁の話で御座います
「必殺仕事人 2012」(2012)[30]

アノヨノジゴクト(8) / コノヨノジゴク(7) / ドチラモジゴクニ(8) / カワリ

[30] 以降、2018 まで同じ前口上が使われている。ただし、番組冒頭ではなく、少し話が進んでからというところに以前の作品との違いがみられる。

ナシ(5)

4. 結語

本稿では、三味線を伴奏にして色恋を題材にした俗曲としての都都逸ではなく、2 節では音曲漫才として、3 節では歌として、4 節ではナレーションとして都都逸の形式をとるものを列記してきた。都都逸は、ふだんはあまり気づかないけれども、様々な形で埋め込まれて息づいている。

都都逸は七七七五調であるが、話体によって韻律節構造は変わってくる。福盛貴弘（2017）では、落語の中で会話として語るだけの都都逸は、短歌や俳句で指摘されている、いわゆる 8 拍子構造ではないということを指摘した。俗曲、音曲であればなおさらであろう。音数律が同じであっても話体差によって違いが出る音声学的特徴を明らかにしていくのは今後の課題といえよう。

参考文献

相羽秋夫（1980）『現代上方演芸人名鑑』少年社

大阪府立上方演芸資料館編（2008）『上方演芸大全』創元社

福盛貴弘（2016）「『刻うどん』にあって『時そば』にないくだり ― 暑けりゃ肌脱げ、寒けりゃ袷着 ―」『北海道言語文化研究』14：179-194.

福盛貴弘（2017）「上方落語『刻うどん』における都都逸 ― 歌わない都都逸の韻律節 ―」『実験音声学・言語学研究』9：139-154.

付記

脚注における Web サイトの最終確認は、2018 年 2 月 20 日である。脚注での芸人情報は相羽秋夫（1980）、大阪府立上方演芸資料館編（2008）ならびに Wikipedia 情報を用いている。

また、女性漫才師、音曲漫才師についての所感は 2015 年 5 月 30 日「「過去と雑感と笑い」第一夜　今いくよさんを偲んで」https://ameblo.jp/fukumori-

takahiro/entry-12033082088.html からはじまり、第十夜まで記している。

〈追記〉

タイヘイトリオのタイヘイ夢路さんが、2018 年 7 月 31 日にお亡くなりになりました。お悔やみ申し上げます。

音曲漫才師としての夢路さんの記憶も残っているが、「ときめきタイムリー」（よみうりテレビ、1984-1996）で、人生相談のコーナーを担当されていたころの記憶も残っている。コーナー前にタイヘイ夢路、正司花江、今喜多代（ときめき少女隊？）の 3 名でダンスを披露していた。東京進出したてのダウンタウンがゲストで、「さんまさんみたいに今どき使わない大阪弁でやっていかなあかんのんでしょうか」と相談したところ、「そんなん気にせんでええ」という旨の回答だった。当時は、NSC（吉本総合芸能学院）出身者は師匠なしの礼儀知らずという扱いで、師匠の方々から蔑まれた時期があったが、このやり取りを見て、受け入れられたんやなと思えた。